

----- (はじまり) -----

タケシ「うーん。やっぱり、予防接種しようかな...」

アスカ「あれ、風邪一つ引かない人が何の予防注射？」

タケシ「今年は例年になくインフルエンザが流行っているそうなんですよ。仕事のプロジェクトに迷惑掛けたくないんで、インフルエンザの予防接種を受けた方がいいのかなと思って。それに...」

アスカ「それに？」

タケシ「この資料を見てくださいよ。インフルエンザワクチンの有効率が70%ですよ。100人中70人のインフルエンザ発病を防ぐことができるんですよ。だから接種した方がいいに決まっていますよね」

アスカ「あら、その解釈間違ってるわよ。70人が罹らないんじゃないかって、ワクチンを接種してなくて発病した人が、仮にワクチンを受けていたらそのうちの70%の人は罹らなかったのにねってことよ」

タケシ「???よく分からないんですけど」

アスカ「ちょっとややこしいからね。分かりやすく図表にするとこんな感じ」

	発病なし	発病
ワクチン接種なし	30人	10人
ワクチン接種あり	37人	3人

アスカ「10人が3人になるわけよ。7人減ってるよね。すると7÷10で70%ってことになるのよ。だから、こんな表でも有効率は70%ね」

	発病なし	発病
ワクチン接種なし	29990人	10人
ワクチン接種あり	29997人	3人

タケシ「これだと元々発病しない確率が99.9%じゃないですか。こうなると、有効率が高くても低くても関係ないような」

アスカ「この手の用語は定義をしっかりと理解しておかないとね。それにインフルエンザワクチンの有効率は実際には30%くらいって聞いたわよ」

タケシ「流行した年によるんですかね」

アスカ「そうね。ちなみに米疾病対策センターのCDCが今年の冬のインフルエンザワクチンの有効率は23%前後だと発表しているわよ。効かないって言うようなものね。元々、過去10年で有効率は10%~60%だから特別に低いってわけじゃないらしいけど...」

タケシ「60%の年だといいいけど、有効率が23%じゃあ、効果があるとは言えないなあ...」

アスカ「はしかの予防接種の有効率なんて95%だから、インフルエンザワクチンの60%だって、まだまだ低いけどね」

タケシ「そう言われればそうですけど...。やっぱり、受けた方が良さそうですかね」

アスカ「ふーん。予防接種は個人の自由だから否定はしないけど...。インフルエンザワクチンの有効性には疑問もあるのよ」

タケシ「まさか、国が率先してやってるんですよ。それに幼児や高齢者がインフルエンザに罹ると命にかかわるらしいじゃないですか」

アスカ「まあ、あんたは真正直なタイプだからね。インフルエンザワクチンを打ったからってインフルエンザに罹らないとは限らないんだから、誤解しちゃダメよ。今は副反応なんて言うてるけど、副作用だってあるんだからね。それに...1987年の前橋リポートって知ってる？」

タケシ「いえ、知らないですけど...」

アスカ「1962年から1994年までの約30年間に小中学生にインフルエンザの集団接種が行なわれていたんだけど、1980年に群馬県の前橋市がインフルエンザワクチンの接種を止めてみたのよ。どうも効かないんじゃないかってことね。そして、その後の5年の間、継続して接種している周辺の市との違いを比べたの。統計的な手法でね」

タケシ「そんなことがあったんですか。そ、それで、どうだったんですか？」

アスカ「それがね...。1984年の調査データなんだけど、見てみる？」

非接種群 接種群

=====

前橋市	4021人	0人					
罹患者数	1832人						
	45.6%	(1回)	(2回)				
=====							
高崎市	1877人	1291人	18941人	---+			
罹患者数	1017人	592人	7254人				
	53.9%	45.9%	38.3%				接種群
-----							=====
桐生市	2751人	2318人	7305人		非接種群	(1回)	(2回)
罹患者数	1425人	1039人	2860人	+-->	=====		
	51.8%	44.8%	39.2%		7231人	5445人	32639人
-----					3962人	2598人	13255人
伊勢崎市	2603人	1836人	6393人		54.8%	47.7%	40.6%
罹患者数	1520人	967人	3141人				
	58.4%	52.7%	49.1%	---+			

アスカ「統計処理上、前橋市以外をまとめてみたのが、右側の表よ。ほら、前橋市とそれ以外の1回接種群を比べると45.6%と47.7%だから母比率の差の検定だと有意差があるわね」

タケシ「えっ！？それって、インフルエンザワクチンを打ったほうが、逆に罹患率が高くなるってことですか？」

アスカ「まあまあ、結論を急がないで。次の2回ってところ見てよ。これってワクチンを2回接種したってことだけど、これだと罹患率が40.6%になるのよ。検定すると余裕で有意差があるわけ」

タケシ「2回接種すればワクチンの効果があるってことなんだ...」

アスカ「統計的にはね。でも面白いのは前橋市以外の非接種群よ。こちらもしっかりと有意差が出てるのよね。ワクチンを接種している市では、ワクチンを打たなかった人の罹患率が上昇してるの」

タケシ「つまり、ワクチン接種がインフルエンザを増やすってことですか？」

アスカ「地域差もあるかもしれないし、単年のデータだから断定できないけど、単純にデータを見てみてよ。何にもしていない前橋市の罹患率は45.6%よ。残り3市の非接種と接種(1回・2回)の9つのパターンで罹患率が下回ったのは3つだけなのよ」

タケシ「10パターンあるうちで、まったく予防接種しない前橋市が4番目ということか...。2回接種だけに限ったとしても、伊勢崎市よりも罹患率が低いですしね。うーん。予防接種してもしなくてもあまり変わらないと...」

アスカ「でも、ワクチン接種を続けた市に限れば、ワクチンを打たないよりも打ったほうが罹患率が低くなるのは、統計的にも確かなのよね」

タケシ「だとしてもワクチン接種をした市にいるワクチンを打たなかった人の罹患率は何もしない前橋市よりも増えてしまう…。うーん。難しい結論ですね」

アスカ「とにかく、前橋レポートは有名で、調査やデータ収集もしっかりしているし、海外でも評価されてるわ。国のインフルエンザ集団予防接種に影響を与えたことは確かよ」

タケシ「結局、インフルエンザワクチンは効果があるのかないのか…」

アスカ「統計的な結果はともかく、本当に効果があるんだったらインフルエンザ予防の集団接種は続けてるはずよね。でも、実際は副作用などが報告され続けて、結局は辞めることになったわけ。ワクチン推進派は副作用の風評が立ったから止めたんだって言ってるけどね」

タケシ「うーん。それじゃ、なんで今でもインフルエンザのワクチン予防接種が続けられているんですか？」

アスカ「いろんな考えをってる人がいるからね…。科学的な事実だけを言うとな、毎年流行するインフルエンザって株が違うのよ。そこで、流行しそうな株に合わせてワクチンを作っておくわけだから、合わなかったら全然意味ないのよ」

タケシ「へえー、ワクチンってそうやって作ってるんですか！すると、毎年流行するインフルエンザの予測は正確なんですか？」

アスカ「当たったり、外れたりね。CDCだって言ってるじゃない。今年は有効率が23%だったって」

タケシ「それじゃ、まるでギャンブルみたいですよ。でも、予測が当たればインフルエンザワクチンには意味があるわけなんですよ」

アスカ「…それがね。インフルエンザワクチンって変異が早くって、シーズン中にも変わってしまうのよ。だから、始めは合っていたワクチンもすぐに合わなくなるのよ」

タケシ「そ、そうなんですか。インフルエンザって手強いんですね」

アスカ「ウイルスの世代交代は早いから、新しい環境に適合して生き残る適性を持ったものが次世代に繁殖するわけで、マクロで見ればワクチ

ンで対応できない特性を持ったウイルスに変異するのは、当然と言えば当然なのよ」

タケシ「まるで、いたちごっこ...」

アスカ「まさにそのとおりよ。それに、実際にインフルエンザに罹った人が獲得した免疫は長期間効くのに比べて、ワクチンの効果って数年程度なのよ。数年前に新型インフルが流行ったときも、大昔にAソ連型に罹患した高齢者は新型には罹らなかったしね」

タケシ「それでインフルエンザワクチンは毎年打ちましようって言うてるのか...」

アスカ「それは、インフルエンザの流行型が毎年変わるからだろうけど、同じシーズン内に2回ワクチン打つようにとも言ってるから、あなたの言い方も強ち間違いじゃないわよね。使ってるワクチンの種類は同じなのよね」

タケシ「ええ？今までの説明だと同じ種類なら意味ないじゃないですか！」

アスカ「ワクチンの開発は年単位でないと出来ないからね。私個人の意見としてはインフルエンザのワクチンは意味ないと思うけどね。それにワクチンって、血管注射するでしょ」

タケシ「え？普通、そうですよね」

アスカ「でもウイルスって、いきなり血管に入ってくると思う？」

タケシ「あ、そうですね。まずは口とか鼻かな...」

アスカ「でしょ。まずは粘膜に感染するわけ。そこで免疫と戦うのよ。いきなり血管内レベルにまで戦いが及ぶことはないわけ。もちろん、免疫システムが負け続けて血管レベルにまでなることはあるけどね」

タケシ「じゃ、そのためのワクチンってことなんですかね」

アスカ「そんな言い方もされてるわよね。インフルエンザワクチンを打ったのにインフルエンザに罹ったって人に『よかったですね。これくらいで済んで。ワクチンを打たなかったらもっと酷くなっていたかもしれないですよ』ってね」

タケシ「それって、お守りと似てますよね。お守りを持ってたのに事故にあったって言う『よかったですね。お守り持っていたから、このくらいの事故で済んだんだ』って」

アスカ「はは。確かに似てるわね。それに重症化を防ぐって言うけど、実はデータの裏づけがないのよね」

タケシ「そうなんですか…。血管注射と言えば、鼻の穴にインフルエンザの生ワクチンをスプレーするタイプも出てきましたよね。あれだったら、痛くもないし、粘膜で感染するから予防効果が高いそうですよ」

アスカ「フルミストとかっていう鼻に噴霧するタイプのものね。確か80%以上の予防効果って言ってたけど、あれは2歳から7歳に限ってなのよね。でも、子供だけに効果ありとか生ワクチンとかって、本当に大丈夫なのって思うけど…」

タケシ「小さい子がインフルエンザ感染すると大変だから接種するんじゃないんですか？効果が高いならよりOKなんじゃ…」

アスカ「副作用との天秤で？接種した後は咳や鼻水の風邪症状が出るし、場合によっては、喘息様症状が出ることだってあるのよ。重篤な副作用になるとショック症状やギランバレー症候群もね。それに日本は非承認だから予防接種で副作用が出ても補償対象にはならないから注意が必要ね」

タケシ「一長一短か…。ふう、ワクチンって何なんでしょうね」

アスカ「健康な体に弱毒化したインフルエンザウイルスを感染させるってことがワクチン接種なんだから、無事に効果的な免疫が獲得されればいいんだけど、それがきっかけで本当に病気になることもあるから、予防接種はデリケートな問題なのよ。例えば、ポリオワクチンの重篤な副作用なんて、ポリオの症状そのものなのよ」

タケシ「うーん。なんだかわけが分からなくなってきました」

アスカ「それに知ってる？ヨーロッパだとインフルエンザは風邪と割り切って、医者に行かないそうよ。家で療養するみたい」

タケシ「そ、そうなんですか！？」

アスカ「日本だけよ。こんなに予防接種が流行っているのは。それに罹った後のタミフルやリレンザといった抗インフルエンザ薬だって、何故か日本が一番備蓄しているのよ。生産国よりもね」

タケシ「…。お金の問題なんですか」

アスカ「さあね。大人の事情かな。そういえば、異例の承認スピードだった

ラピアクタなんて抗インフルエンザ薬ってのもあるわよ。開発した本場のアメリカですら、臨床試験段階だったのにね」

タケシ「いったい何がなんだか…。凄く効くからスピード承認なんですか？」

アスカ「それがね、そんなに効かないのよ。ラピアクタなんて発熱の時間が2割短くなる程度よ。時間にして半日足らず。論文にもあるから間違いないわ。副作用のリスクを負うほどの時間短縮なのかしらね」

タケシ「そんな…。他にも効果が怪しいワクチンってあるんですか？」

アスカ「うーん。一つ一つ検討してみないと答えられないわね。ワクチン否定派の人に言わせれば全てのワクチンは意味がなく、逆に害であるって言ってるわよ。当然、肯定派の人は効果があるから打つべきであると言ってるし」

タケシ「そうなんだ…」

アスカ「大抵の問題には表と裏、両方の見方があるからね。両方の言い分はずっと平行線よ…。ま、ワクチンは肯定派が大勢を占めるけどね」

タケシ「僕、ますます混乱してきましたよ…」

アスカ「混乱ついでに意地悪すると、最近になって予防接種に力を入れている子宮頸癌ワクチンのサーバリックスなんて、副作用の発症率が今までのワクチンとは比べものにならないくらいに高いからね」

タケシ「あ、テレビで見ました。それって今も接種されているんですね」

アスカ「もちろん、努力義務だけどね。でも、実際に副作用が出た人は確率問題じゃないからね。運が悪かったじゃ、すまないでしょ。記憶障害や手足の麻痺、歩行障害なんて起こっているけど、それらは注射の痛みによるストレスで発症したっていう見解だからね」

タケシ「えっ！注射の痛み？だとしたらほとんどの人がなってるはずですよ」

アスカ「そうよね。でも、そう言ってるのよ。接種推進派の人達は」

タケシ「そんな…」

アスカ「幸いなことに、日本では予防接種するかどうかは自分で決められるんだから、よく調べてから打つべきね。予防接種するしないは個人の自由。とにかく、予防接種は『努力義務』なんだから」

タケシ「ど、努力義務？」

アスカ「そう。強制じゃないってことよ。医者の中には誤解している人がいて、予防接種は強制だから打たないといけないって言う人もいるくらいだから気をつけなきゃ」

タケシ「そう言われると、気の弱い僕なんて、打っちゃいそうですよ」

アスカ「そのときは、打たないと逮捕されるんですか？って聞けばすぐに分かるわよ。逮捕なんて出来ないもん。努力義務なんだから」

タケシ「先輩は気が強いから言えるけど僕は…」

アスカ「でも、あんた。気が弱いて割には、風邪とは無縁で強いじゃない」

タケシ「ええ、まあ。小学校以来、無敵です！」

アスカ「ったく。風邪だって立派なウイルスなのよ。ウイルスだけにはめっぽう強いのかしら…。ま、どっちにしても風邪も引かないような人が特別にインフルエンザにだけ罹るとは思えないけどね」

タケシ「それって、貶してます？褒めてます？どっちの見方なんですか？」

アスカ「ふふっ。両方ね」

----- (つづく) -----